

ハンドシャワー付 シングルレバー混合水栓

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

SF-HB452SYX-LE型

1. 施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは、取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意 … 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

(注意) … 「注意しなさい！」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

(禁止) … 「してはいけません！」(一般的な禁止記号です。)

(指示) … 「指示通りにしなさい！」(一般的な行動指示記号です。)

(分解禁止) … 「分解してはいけません！」

注意

(禁止)	水道水および飲料可能な井戸水以外は使用しないでください。 ※商品の内部腐食により、漏水の原因となります。 ※飲料可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいいます。	
(禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てヤケドをする恐れがあります。 ※漏水し、家財等を濡らす財産損害発生恐れがあります。	
(禁止)	給湯器の給湯温度設定は85℃以上で使用しないでください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
(禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
(分解禁止)	修理技術者以外の方は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
(指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押えた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇しヤケドをする恐れがあります。	
(指示)	フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側・水側の両方の止水栓を閉じ、水栓の湯側・水側それぞれでハンドルを開け、ホースから残水を抜いてください。 ※正しく施工できなかったり、漏水の原因となります。	

本製品の仕様と条件

給湯器設定温度	85℃以下	使用可能水質	水道水および飲料可能な井戸水(※1)
使用環境温度	【一般地用】0~40℃	但し、内部の水を凍結させないでください。	
給水給湯接続	G1/2		
圧力条件	0.15MPa(流動時)~0.75MPa(静止時)(※2) 給水圧力≥給湯圧力 (※3)		
取付条件	水栓取付穴：φ35~φ39mm、カウンター厚：6~30mm		

- ※1 飲料可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
 ※2 水栓金具が接続された状態での水栓金具の給水・給湯接続部直前の圧力です。
 ※3 給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 給湯温度は使用する最高温度より約10℃高く設定してください。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60℃以下**をおすすめします。
- ガス給湯器と組み合わせてご使用の場合、給湯器の能力・水圧などの条件により給湯器が着火しないことがあります。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ(対辺8)、プライヤー、モンキーレンチ(呼び250以上)が必要です

止水栓と点検口を設けてください。

- 取付後の流量調節及び保守点検のために、必ず止水栓(別売)と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために、**流量調節をしてください**。特に水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

補強材を使う場合

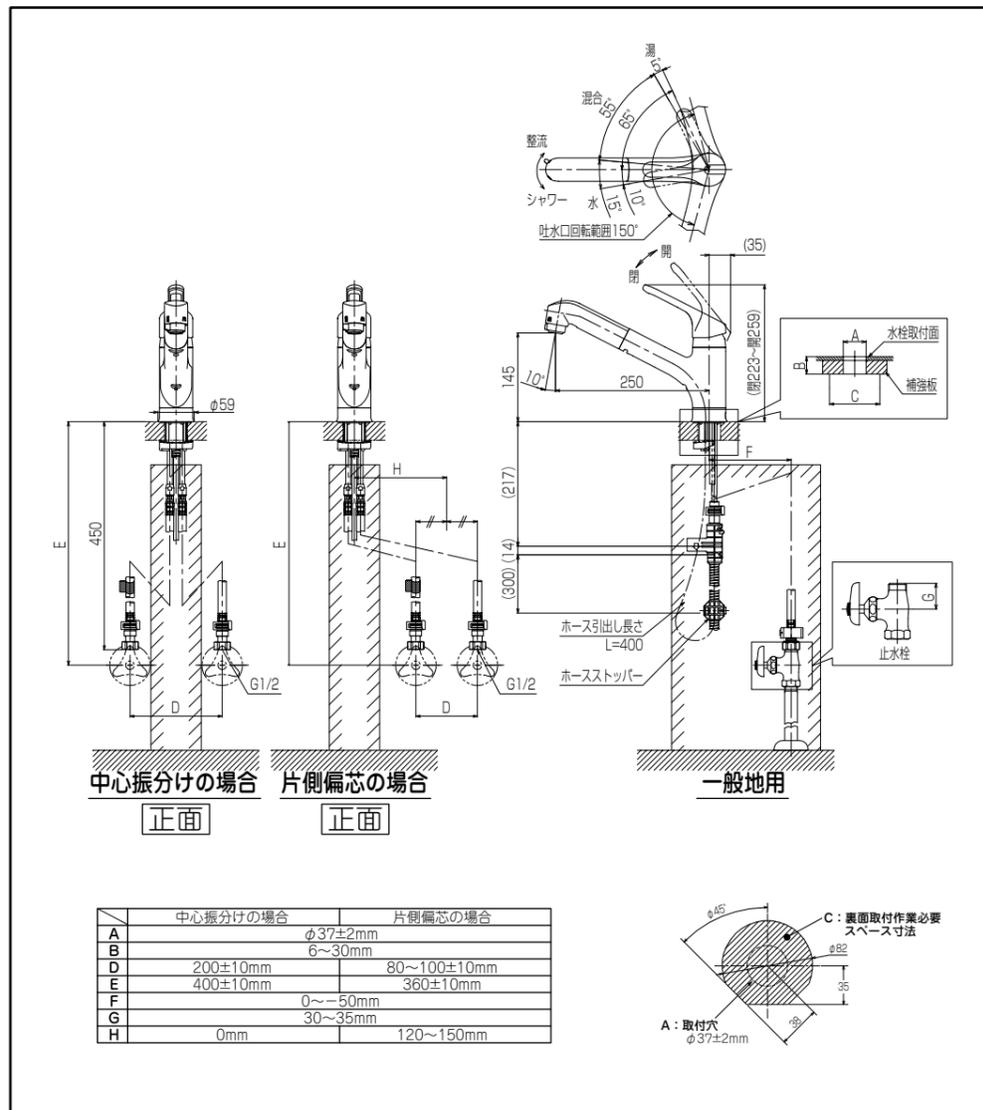
カウンター裏面に補強材を使う場合は、木製のボードを使用してください。珪酸カルシウム板は使わないでください。本体が正しく固定できないことがあります。やむをえない事情で珪酸カルシウム板を使用する場合は、別売のA-3811を使用し取り付けてください。

その他の注意点

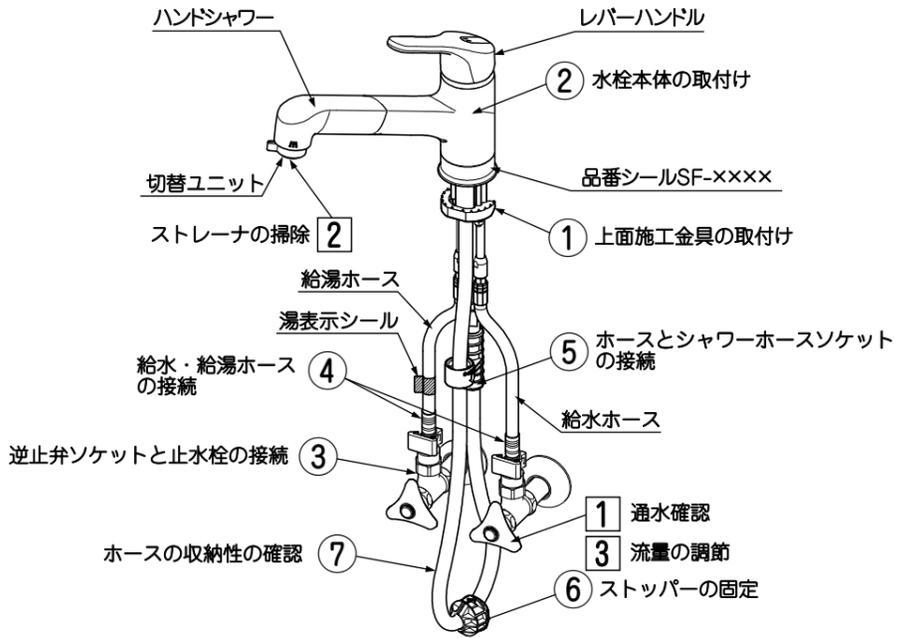
- 給水は上水道に接続してください。
※温泉など異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
- 逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保護材を巻いてください。
- 商品の表面には直接工具を掛けしないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱、取付けの際には商品の表面にキズを付けないように十分に注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください**。

施工完了図

※LEED対応品となります。



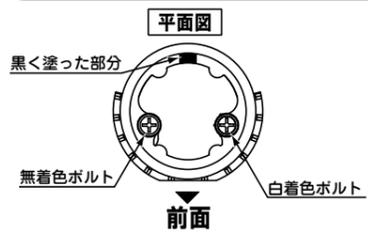
施工手順



2. 施工方法

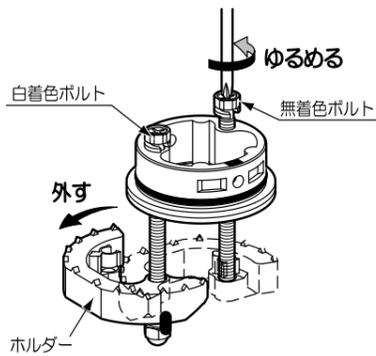
以下の手順通り、正しく取り付けてください。

1 上面施工金具の取付け

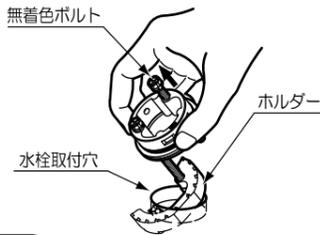


注意 上部施工金具は向きに注意して、正しく取り付けてください。
※正しく取り付けないと水栓本体の固定強度が低下するなど、不具合の原因になります。

1. 無着色のボルトをゆるめ、ホルダーを外す。

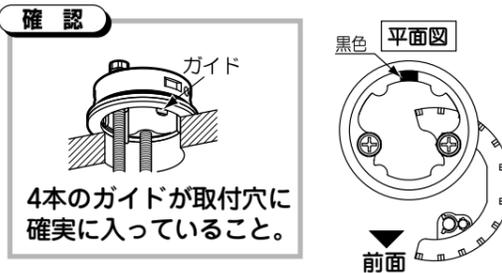
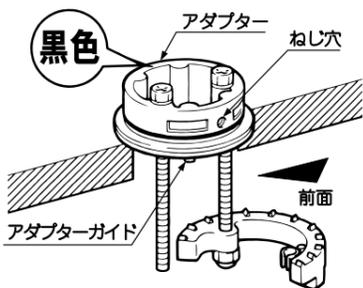


2. ホルダーを水栓取付穴に挿入する。

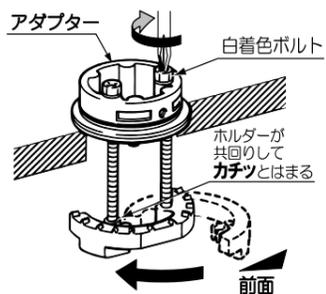


ポイント
●無着色ボルトは引っかかりないように少し引っぱり上げておく。
●ホルダーがカウンター裏面の障害物に引っかかり、正しい位置に取付けできない場合は、白着色ボルトを数回左右に回してください。

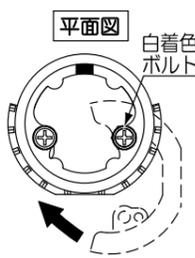
3. アダプターの黒く塗った部分が後方を向くように位置決めをする。



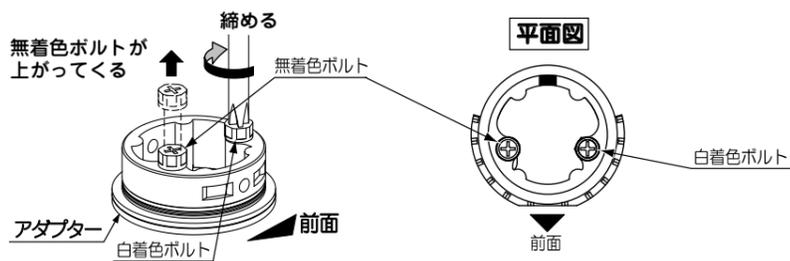
4. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトを1~2回転締める。



注意 ゆっくり回してください。
※高速回転はしないでください。正しく施工できなくなる恐れがあります。



5. アダプターを手で押さえ、白着色ボルトをしっかりと締める。

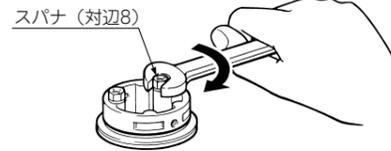


6. 無着色ボルトをしっかりと締める。



ポイント 各ボルトを交互に締め付け、締め付け力が均等になるように。

7. スパナでそれぞれのボルトを約1/2回程度増締める。



注意 締め付けすぎないでください。

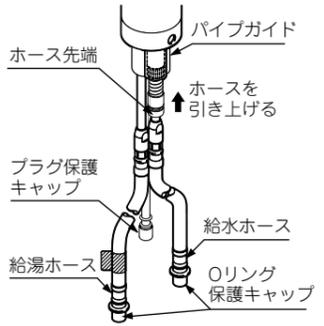
確認 アダプターのぐらつきがないこと。

2 水栓本体の取付け

1. ホースの先端がパイプガイドの中にかくれるまで引き上げる。

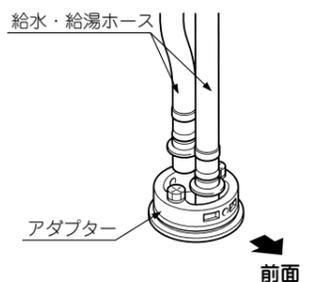


注意 先端のキャップはそれぞれ接続する直前まで外さないでください。
※Oリングに傷がついたりゴミがかみ込むことで、漏水の原因となります。

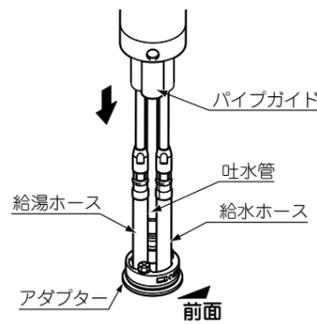


2. 給水・給湯ホースの先端を横並びにし、さらに上下にずらしてアダプターに挿入する。

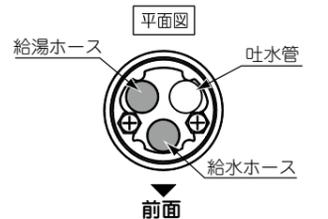
ポイント 横並びにだけでは、給水・給湯ホースの先端がアダプターに干渉し挿入できません。



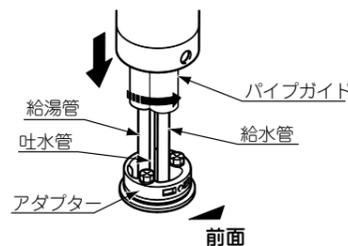
3. パイプガイドがアダプターに当たる直前までは、アダプターの内側全体を使って挿入する。



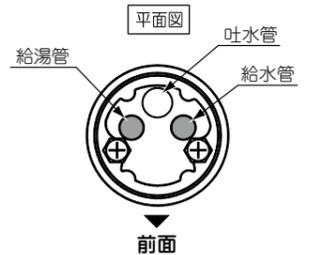
ポイント 給水・給湯管が横並びになる向きにして挿入する。



4. パイプガイドがアダプターに当たる手前で水栓全体を回し、挿入する。



ポイント 給水・給湯管が横並びになる向きにして挿入する。



注意 水栓全体が回転可能となる前に無理に回さないでください。
※給水・給湯管等が破損し、漏水の原因となります。

5. カバーリングの穴、水栓本体の穴、アダプターの穴の全てをそろえて皿小ねじで固定する。



確認 水栓本体にぐらつきがないこと。

6. カバーリングを180°回転させ、穴を後ろに回す。



ポイント カチッと音がするまで回す。

〔水栓本体の取り外し方〕

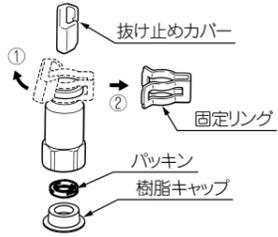
1. カバーリング背面のボタンを押しながらカバーリングを180°回す。



2. カバーリングの穴の位置を皿小ねじに合わせ、皿小ねじを外し、本体を抜く。

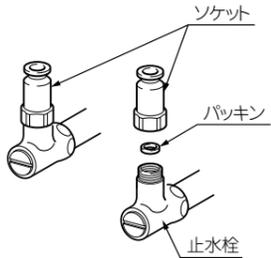
3 逆止弁ソケットと止水栓の接続

1. 抜け止めカバー、固定リング、樹脂キャップを取り外す。



注意 パッキンの紛失に注意してください。
※漏水の原因になります。

2. ソケットを止水栓に固定する。



注意 ●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、先端の幅を袋ナットの2面幅に合わせてください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。

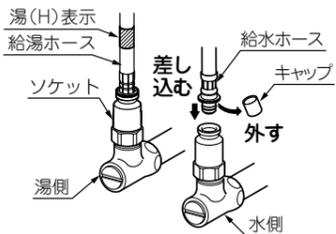


●ソケットの締付けにモンキーレンチを使用する場合は、工具の向きにご注意ください。
※締付け不足により、漏水の原因となります。
※水栓金具や工具が破損する恐れがあります。

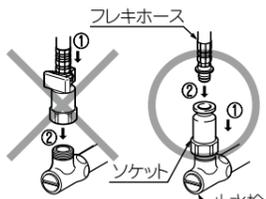


4 給水・給湯ホースの接続

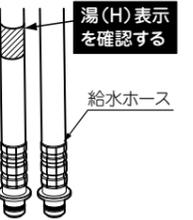
1. 給水・給湯ホースをソケットに差し込む。



注意 ●必ずソケットを止水栓に固定してから給水・給湯ホースを接続してください。



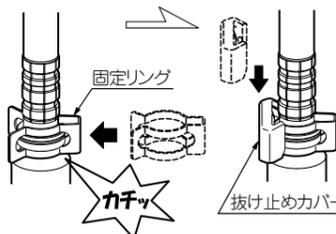
●給水・給湯ホースの差し間違えに注意してください。



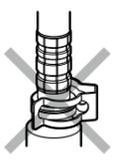
ポイント ●Oリングに傷をつけたりごみかみがないように注意してください。
※漏水の原因となります。
●ホースが挿入しにくい場合は、ハンドルを開けた状態で施工する。

2. 固定リングと抜け止めカバーをはめ込む。

確認 確実に接続されていること。
※接続後に固定リングを回し、確実にはまっていることを確認してください。
※給水・給湯ホースを上を引き、確実に接続されていることを確認してください。



注意 はめ損ねに注意してください。
※固定リングが外れると漏水の原因になるので、必ずしっかりとめ込んでください。



抜け止めカバーは、はめたままにしてください。
※直接固定リングに触れるとケガをする恐れがあります。

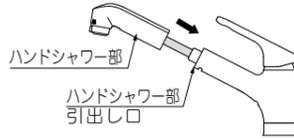


ホースを曲げる場合は曲げ半径30mm以上確保してください。
※漏水の原因となります。

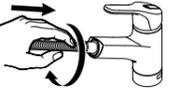


5 ホースとシャワーホースソケットの接続

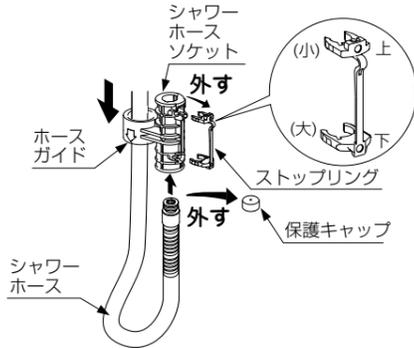
1. ハンドシャワー部をハンドシャワー部引出し口に納める。



ポイント ホースが抜けて入れにくい場合は、ホースを押しながら回転させる。



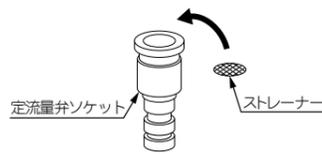
2. シャワーホースをホースガイドを通して、シャワーホースソケットに差し込む。



注意 ●ストップリングを紛失しないように注意してください。
※シャワーホースが固定できず、漏水の原因となります。

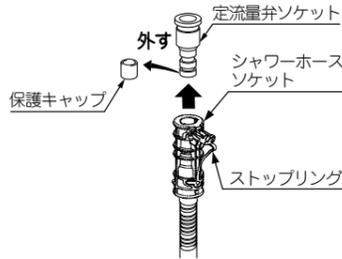
ポイント シャワーホースは奥までしっかりと差し込む。

3. 同梱しているストレーナーを定流量弁ソケットに水平になるように挿入してください。

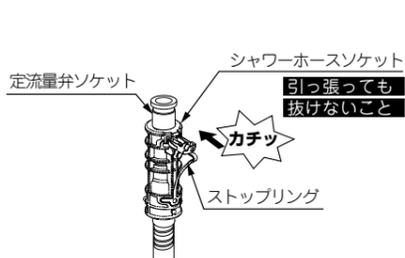


重要 ストレーナーは必ず製品に同梱のものをご使用ください。
※定流量弁にゴミが詰まり、吐水が乱れたり、流量が少なくなる原因となります。
ストレーナーは必ず水平にしてください。
※吐水管接続時にストレーナーが破損し、吐水が乱れたり、流量が少なくなる原因となります。

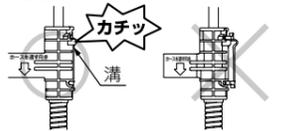
4. シャワーホースソケットを定流量弁ソケットに差し込む。



5. ストップリングをシャワーホースソケットに差し込んだ後、シャワーホースを引っ張っても抜けないことを確認する。

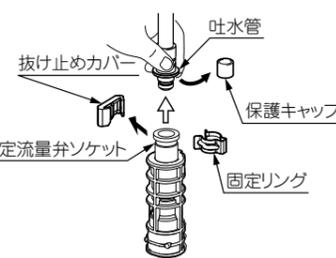


注意 ●カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。
●ストップリングがシャワーホースソケットの溝に納まっていることを確認してください。
※正しく取り付けられていないと、漏水の原因となります。



ポイント シャワーホースを引っ張っても抜けないこと。

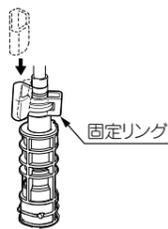
6. 吐水管の保護キャップを外し、シャワーホースソケットを給水ホースの背面を通して接続管プラグにしっかりと差し込む。



注意 ●Oリングを傷つけたりゴミかみしないようにしてください。
※漏水の原因となります。
●ソケットを差し込むときは、吐水管に無理な力が加わらないようにしてください。

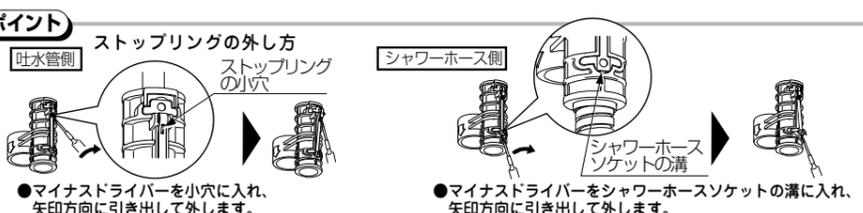
確認 寒冷地仕様の場合は、ホースが折れ曲がらないように水抜きエルボの向きを調整する。

7. 吐水管と定流量弁ソケットの接続部に固定リングを確実にめ込む。



確認 確実にはめ込んでください。
※しっかりとめ込んでいないと漏水や固定リングでケガをする恐れがあります。

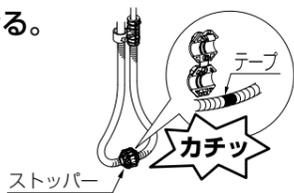
ポイント ●マイナスドライバーを小穴に入れ、矢印方向に引き出して外します。
●マイナスドライバーをシャワーホースソケットの溝に入れ、矢印方向に引き出して外します。



6 ストッパーの固定

テープを覆うようにストッパーを取り付ける。

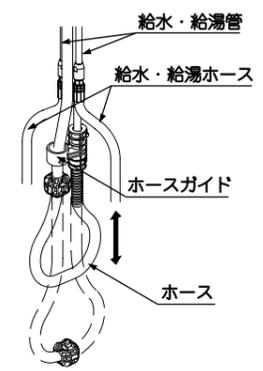
ポイント
ハンドシャワーは吐水口に納めた状態で行う。



7 ホースの収納性の確認

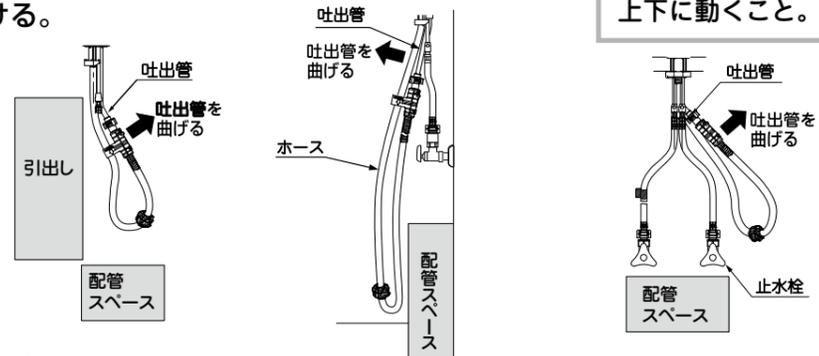
1. ハンドシャワーを出し入れし、ホースが、給水・給湯ホースや他の配管等と干渉せずにスムーズに上下に動くことを確認する。

ポイント
●ホースがねじれていない状態で、給水・給湯ホースと干渉する場合は、給水・給湯管を、軽く曲げてホースの干渉を避けてください。
●ホースが他の配管等と干渉し、ホースがスムーズに上下しない場合は、ホースガイドを回転させて、ホースとの干渉を避けてください。



2. ホースが引出し、配管スペース、止水栓などに干渉する場合、吐出管を軽く曲げて、ホースの干渉を避ける。

確認
ホースがスムーズに上下に動くこと。



ポイント
シャワーホースソケットを接続した銅管が吐出管です。

注意
吐出管を曲げる場合は、曲げる角度を30°以下としてください。
※無理に曲げると吐出管が損傷し、漏水の原因になります。

3. 施工後の調節

以下の手順通り、正しく調整してください。

1 通水確認

通水確認を以下の要領で行ってください。

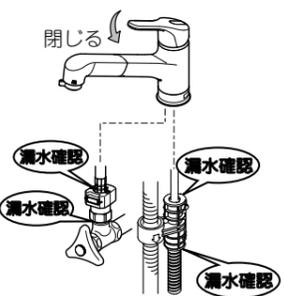
1. レバーハンドルが閉じていることを確認し、給水・給湯の止水栓を開く。



2. 水側・湯側それぞれの位置でレバーハンドルを開け、湯水が間違いなく通水されることを確認する。
※給湯配管に給水ホースを接続すると、漏水や故障・やけどの原因になります。



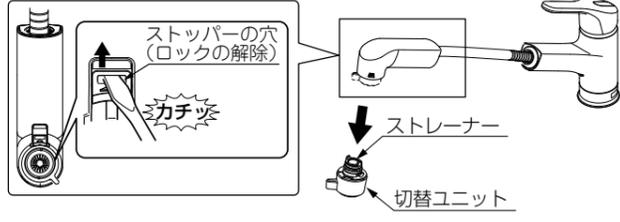
3. レバーハンドルを閉じ、接続部からの漏水がないか確認する。



2 ストレーナーの掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、切替ユニットのストレーナーの掃除を以下の要領で行ってください。

1. ハンドシャワーの裏側にあるストッパーをスライドさせて、切替ユニットを外す。



2. 切替ユニットを引っ張り、取り外す。

注意
切替ユニットが固くて外しにくい場合がありますが、切替ユニットは回転させず、引き抜いて外してください。
※無理に回転させると、切替ユニットが破損する恐れがあります。



3. 切替ユニットのストレーナーを掃除する。

注意
●切替ユニットを落とさないよう注意してください。
※破損したり、キズがついたりする恐れがあります。
●水を出し過ぎないでください。
※水が飛び跳ね、衣類を濡らす恐れがあります。
●ストレーナーが切替ユニットから外れてしまった場合は、向きに注意して取り付けてください。
※向きが正しくないと、ゴミが詰まりやすくなり、流量が少なくなる場合があります。



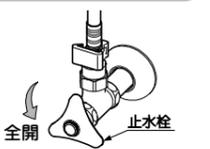
4. 切替ユニットの向きに注意しながら組み付け、ストッパーをロックする。



注意
切替ユニットが外れないこと。

3 流量の調節

LEED貢献商品のため、流量は6.6L/min以下になります。止水栓は、全開でご使用することをおすすめします。



4. 引渡し前の確認

引渡前および故障時の点検は以下の要領で行ってください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か？	—	「本製品の仕様と条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか？	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	止水栓は十分開いているか？	—	止水栓を十分開く。
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	ゴミかみはないか？	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか？	②	キズがあれば部品を交換する。
	ゆるみはないか？	③	カートリッジ固定ナットを締める。締まるとレバーハンドルが重くなる場合がありますので注意してください。
希望の温度が得られない	圧力は十分か？	—	「本製品の仕様と条件」の項参照。
	流量調節はよいか？	—	「流量の調節」の項参照。
	ストレーナーにゴミ詰まりはないか？	①	ゴミ等を水で洗い流す。
水栓本体がガタつく	ゆるみはないか？	④	ねじをしっかりと締める。
レバーハンドルがガタつく	ゆるみはないか？	⑤	ねじをしっかりと締める。
ホースがスムーズに収納できない	シンク内でホースがねじれたり、配管と干渉していないか？	⑥	「ホース収納性の確認」の項参照。
湯水の逆流がある	逆止弁は正常か？ (ゴミ、砂かみはないか？) (Oリングにキズはないか？)	⑦	ゴミ等を水で洗い流す。 キズがあれば部品を交換する。

ポイント
故障ではありません
●水を止めた後に少しの間水が垂れますが、切替ユニット内部に溜まった少量の水が排出されるため、故障ではありません。

